

道徳 ジャーナル

- 21世紀 心の時代に
ゴリラに会いに行く 前川貴行……1
- 風
「雄勝復興輪太鼓」はこうして生まれ、
今も子どもたちを支えている
佐藤淳一……4
- 特別の教科「道徳」評価について
川上孝生……6
- どうなるこれからの道徳授業……10

ゴリラに

会いに行く

21世紀
心の時代に

クマやワシといった食物連鎖の頂点に立つ生き物をはじめ、リスやウサギといった小動物にいたるまで、さまざまな野生動物に向き合ってきました。撮影を通じて対峙する経験を積み重ねるなかで、いつも頭の隅で気にかけていた動物がいます。ゴリラです。いつか見てみたいと漠然と考えていました。

動物写真家として活動を始めて十年が過ぎたとき、意を決してマウンテンゴリラに会いに行くことにしました。火山の中腹に広がる、樹木や草が鬱蒼と生い茂るジャングルをかきわけて行きます。アフリカの赤道直下に位置し、互いに国境を接するルワンダ、ウガンダ、コンゴ民主共和国に広がるヴィルンガ火山群の熱帯雨林は、マウンテンゴリラに残された貴重な聖域です。標高四五〇七メートルのカリシンピ山を筆頭とする火山群は、ルワンダ側が火山国立公園、



動物写真家

前川貴行

ウガンダ側はムガヒンガ国立公園、コンゴ民主共和国側はヴィルンガ国立公園と呼ばれ、それぞれの国で名称の異なる国立公園として地域が保護されています。また、ヴィルンガ火山群の北北東にはウガンダのブウィンディ国立公園があり、両地域がマウンテンゴリラの希少なすみかとなっています。我々人間と九十七パーセント以上も共通する遺伝子をもつ彼らが、この地でどのように生きているのか、その暮らしぶりに接近してみました。

マウンテンゴリラの暮らし

マウンテンゴリラの体高は一・二〜一・八メートル、体重は八十〜二三〇キロ、寿命は約四十年程とみられ、生息数は八〇頭弱と絶滅危惧種に指定されています。

基本的に植物食のマウンテンゴリラは、ジャイアントセロリヤエムグラ、ヒレアザミ、雨期のタケノコなどを好みます。ときには動物性タンパク質となるグンタイアリなども食べるようです。ジャングル内の植物は棘のあるものも多く、それらの茎を食べるときは、いったん手でしごいて棘をはらってから口に入れていきます。

国立公園内のゴリラの生息地へ行くにはレンジャーの同行が義務付けられていて、ゴリラにストレスを与えないため、観察できる時間は出会ってからきっかり一時間と決められています。

本当はもっと長い時間そばにいたいのですが、ルールですから仕方がありません。ゴリラは採食のために日々移動をしており、群れに遭遇できるまでの所要時間がまちまちで、生息地の入り口から三十〜四十分で出会うこともあれば、傾斜のきついジャングルを六〜七時間歩かなければならないときもあります。棘だらけの植物が生い茂るジャングルで彼らを追うのはかなりの困難が付きまといますが、間近で接する彼らの存在感はとても感動的です。

ゴリラは粗雑で凶暴な生き物というイメージを多くの人が抱いているかもしれませんが。しかし、実際に出会ったゴリラは想像とはまるで異なり、温和で繊細な印象を受けました。

マウンテンゴリラは一般的に、背中が鞍状に

白くなったシルバーバックと呼ばれる一頭の大人の雄と、複数の雌やその子どもからなる十頭前後の群れを形成しています。群れをつかさどるシルバーバックは筋骨隆々で巨大な上に想像を絶する怪力の持ち主ですが、思慮深そうな穏やかな瞳で、子煩悩、仲間の面倒見がとてもよいです。研究対象として長い間、人を見慣れてきたせいもありますが、僕が近づいてもいきなり襲いかかってくるようなことはありません。

しかし、近づきすぎると腕を振り回して「邪魔だよ」と威嚇してきたりします。決して安全な動物だと断定することはできませんが、少なくとも刺激しないよう静かに接している限り、ゴリラが急に暴れることはないでしょう。争いを好まず、遊び好きでファミリーの絆も固い、平和な生き物といった印象を強く感じました。しかし研究者によれば、群れの雌が他の雄の子を連れているケースで子殺しが行われた報告もあり、僕が目にした姿はゴリラの奥深い生態のほんの一面でしかないことは容易に想像できます。

第一線の研究者が精力的に生態解明に挑んでいる、五十年前まではまったくの謎だったゴリラの生態が近年解明されつつあります。

シルバーバックは採食のために移動するときには先頭に立ち、寝場所の決定も行い、他の雄の侵入やヒョウなどの肉食獣の接近から群れ全体

を守るリーダーでもあります。異なる群れのリーダーと激しく争うこともあります。ふだんは温和に群れをまとめて導きます。



巨大なゴリラですが、生まれたての赤ちゃんは二キロ弱と、人の赤ちゃんよりかなり小さいです。一年程は母親が肌身離さず世話に没頭し、母乳で育てます。群れの若いゴリラたちも赤ちゃんには興味津々で、構いたくてしょっちゅう近づいてきます。生後一年を過ぎると母親は赤ちゃんを時々シルバーバックに預けるように

なりますが、シルバーバックは子煩悩で、積極的に赤ちゃんの面倒を見ます。徐々にシルバーバックと過ごす時間が長くなり、三歳を過ぎて乳離れをするようになると、寝るときもシルバーバックのそばにすることが多くなるようです。強面のシルバーバックが子煩悩だなんて、なんとなくギャップを感じましたが、もちろん僕たち人間と同様に、動物たちの内面も見た目だけで判断できるものではありません。

動物たちの悲劇

現代は世界中の野生動物たちが、その生息地を追われていると言っても過言ではありません。ゴリラの生息環境もまた同様に深刻な状況です。過度の開発や密猟の横行、生息する国の政情不安や内戦、疫病など理由は多岐に渡ります。ゴリラの肉を食料としたり、手を加工した灰血が珍重されたりもしています。

カメルーンのロベケ国立公園を訪れたときのことです。手付かずの自然が広がる稀有な大地であるこの土地は、ゴリラやヒョウなどの哺乳類のほか、様々な野鳥たちがひしめき合う、生き物のオアシスと言ってよいでしょう。僕はここにすむ野生動物たちの姿をとらえるために、レンジャーやガイドなど総勢十人ほどのスタッ

フと共に、数週間キャンプをしながら撮影に臨みました。

ジャングルを徒歩で移動中、少し開けた場所で大きな茶褐色の物体が目につきました。近づいてみると、それはマルミミゾウの頭蓋骨でした。自動小銃による無数の弾痕が開き、その穴の中は干からびた蛆虫で満たされ、牙は根元からチェーンソーで削り取られていました。辺りには、脚などの骨が散乱し、丸い皿のような足の裏の皮が、腐敗せずに転がっていました。密猟者はゾウを機銃掃射で殺戮し、象牙だけを切り取って立ち去ったのです。象牙は大金で取り引きされ、極東アジアの市場へと流れます。その輪のなかに、残念ながら日本も加わっているのです。象牙を使った美術品は、昔から世界中で贅沢な富の証しとして愛でられてきました。古い価値観に支配された二十世紀までは、百歩譲って仕方がなかったのかもしれませんが、でも二十一世紀の今、いまだそのような現状にあるのは、悲劇以外のなにもありません。

過去から学ぶことなく私利私欲に突き進む先に、はたして何があると言うのでしょうか。人々を魅了してやまない美しい工芸美術品は、凄惨な殺戮の上に形作られているのです。

その数日後、遥か遠くの藪の中から一頭のマルミミゾウが姿を現しました。密猟が横行する

ようになってから、途端に警戒心が強くなったマルミミゾウ。以前は住民のそばを平気で歩いていたそうです。悲運に投げ込まれたその巨大な生き物が立ち去るまで、見つからないよう物陰に隠れて僕はずっと見続けました。こうした話は決して珍しいものではありません。同様のことが世界中で行われ続けています。深刻な貧困も大きな要因でしょう。どこか遠い国の話ではなく、僕たち一人ひとりが自分の問題として認識することが、必要不可欠だと思います。

彼ら野生動物たちの未来は、僕たちの未来でもあります。その舵取りは僕たちの手にゆだねられているのです。

初めてゴリラと出会った瞬間から、僕はゴリラが大好きになりました。それから何度もゴリラのすむ山に通うようになり、写真もたくさん撮りました。そうするうちに、大型類人猿の他の仲間も見てみたくなくなってきました。アフリカにすむチンパンジーとボノボ、それに東南アジアにすむオランウータンです。それぞれの取材も行うようになり、何年もかけて『GREAT APES 森にすむ人々』（小学館）という一冊の写真集を作りました。

いつまでも僕たちと共について欲しいという願いを込めています。

（まえかわ たかゆき）

「雄勝復興輪太鼓」は こうして生まれ、 今も子どもたちを支え続けている

あの日は卒業式だった。巣立つ生徒のために心を込めて温かな式を準備した。式辞の中では、校長としての最後のメッセージを送った。「たくましく生きていってほしい。自らの人生を自らの力で切り拓いていけ」と。笑顔、涙、拍手……。教職員も保護者も地域の方もみんなで生徒たちの成長を喜び、巣立ちを祝った。生徒たちは感動の余韻に浸りながら帰宅した。

そして式が終わって二時間後、生徒と私たち教職員は、人生が一変する出来事に襲われることになる。十四時四十六分。東日本大震災発生。大津波は雄勝の街をのみ込み、雄勝中の三階建ての校舎の屋上を越えて行った。ほぼ全員の生徒の家が流された。必死の思いで山中に生き延びた私たち教職員は、翌日未明になって初めてがれきと化した街、廃墟となった学校を目にした。それはすさまじい光景だった。言葉を失い、呆然と立ち尽くすしかなかった。ただだ

だ生徒たちが「生きていてほしい」そう願うだけだった。それから八日間、ひたすら生徒の安否確認に奔走した。そして奇跡が起きた。三月十九日十九時六分。最後の生徒の確認がとれた。全員無事だった。一人一人があの大津波から逃げ切りたくましく生きていたのである。私は嬉しさのあまり何度もガッツポーズし、そして神様に心から感謝した。

そこから怒濤の日々が始まった。何もかもを失った生徒たちを「笑顔にしたい」その一心で教職員は持てる力の全てを生徒たちのために注いだ。四月二十日。内陸の高校に間借りして学校が再開。様々な悲しみを背負いながら、それでも生徒たちは歩み出した。入学式の日、私は、新たな校訓「たくましく生きよ。」を掲げた。みんなの前を向く言葉がほしかったのである。五月十七日。私は生徒にこう呼びかけた。「ここに生きている証し、多くの人への感謝を



元石巻市立雄勝中学校校長
仙台市立錦ヶ丘中学校校長

佐藤淳一

示し、地域の方を勇気づけるためにみんなで太鼓をやらなにか」と。生徒のみんなから拍手が起きた。でも太鼓は全部流されてない。だから自分たちで創った。古タイヤを洗い、荷造り用透明テープで打面を作り、バチは百円ショップの麺棒にした。台は私が試作し、用務主事さんが生徒分を作ってくれた。

古タイヤの太鼓にぶつけた思い

六月八日、初打ちの日。体育館にタイヤの太鼓独特の重厚な音が鳴り渡った。そのとき私は「すごいものが生まれる」と直感した。まさに「雄勝復興輪太鼓」が誕生した瞬間である。

生徒たちは、被災によるやりどころのない心の叫びを太鼓にぶつけていった。曲は地域伝統の「伊達の黒船太鼓」。手にまめをつくりながら必死に曲を自分のものにしていった。



輪太鼓初打ちの日。想像以上に迫力ある音が出た。

は雄勝の街中に響き渡った。そして地域の方が涙を流して言った「私たちも頑張る」。

生徒たちは、被災した自分たちにも何か人のために役に立つことができることに気付き始めたと同時に、輪太鼓を通して徐々に自信と誇りを取り戻していった。その後は、東京駅、京都、そしてドイツの五都市で公演、ついには東京ドーム五万人のど真ん中で演奏することになった。感動の輪は広がり続け、韓国での公演、AKB48やGLAYなどの著名人との共演など、輪太鼓は生徒たちに多くの出会いと豊かな経験をもたらした。

時は流れて、震災から間もなく九年。被災してから一年間を共に過ごした生徒たちも、二〇

九月十一日。ついに完成した演奏を地域の方々に披露する日が来た。生徒たちは廃墟となつた校舎の前で鎮魂と感謝の気持ちで力強く輪太鼓を打ち、その音

一九年一月に全員が成人式を迎えた。私は三年間成人式に臨み、生徒たちの成長を見続けた。雄勝で漁師になった者、石巻で建築関係の仕事をしている者、大学生活を送っている者、中には東京に出て職に就いた者もいる。それぞれがそれぞれの道を歩み始めた。式の中で、私は無事に二十歳になった教え子たちにもう一度あの言葉を贈った。

「たくましく生きよ」

輪太鼓は、雄勝中と共に

いつかあの子たちに問うてみたいことがある。被災後のあの一年。最悪の状況下、それでも前を向こうとみんなで無我夢中で駆け抜けたあの一年は、どんな意味をもつ一年だったのか。輪太鼓と出会い、ドイツまで行ったことはその後の人生において支えになったのか。被災したことを負の遺産だけにしてはいけないと、学校教育の力で悲惨な体験を貴重な経験へと昇華させ、生きていくエネルギーに変えたいとひたすら走り続けた日々は、あの子たちに何かを残したのか。生きる糧となったのか……。

今、雄勝中では、古タイヤの輪太鼓で演奏することはなくなった。太鼓が全国から寄付されて真新しい立派な太鼓がそろつたのである。生

徒数は当時の三分の一にも満たない。

先日、今の雄勝中の生徒たちが奏でる輪太鼓を聴いた。その演奏にはしっかりと彼らの思いが込められており、変わらぬ人々の心を打ち、感動と勇気を与えてくれるものであった。そこには脈々と流れている雄勝に生きて輪太鼓を打つ者だけが共有する魂があり、「災害に負けないぞ」とたくましく生きる生徒たちの姿があった。

輪太鼓は、今もそしてこれからも雄勝中生と共に在り、共に歩み続けていくことだろう。

(さとう じゅんいち)



独日協会の招きで、ドイツ各地でも公演をした。(2012年3月。ベルリンにて)

特別の教科「道徳」評価について

相模原市立淵野辺東小学校

校長

川上 孝生

平成三十年度から道徳が教科化された。評価については、本校では一年を大きくりとして、年度末に提示を行っており、校内でガイドラインを作成した。担任に学期ごとに評価記述できる児童を挙げさせ、資料不足で記述できない児童については、次学期に発言の機会を増やすなど意識して授業をすることにした。また、授業ごとに児童の発言や感想を記録するようにし、発言や記述が苦手な児童には、意思を表現しやすくするように手立てを工夫した。

基本方針

学習指導要領に基づき、道徳科の評価は以下を基本とする。

- 児童がいかに関心したかを受け止め、励ます個人内評価とする。
- 学習状況や道徳性に係る成長の様子について、「多面的・多角的な見方へと発展しているか」「自分自身との関わりで考えを深めているか」の視点で評価する。
- 評価する過程を重視し、毎時間、評価材料を蓄積していく。評価材料は、道徳ノートやワークシート、発言記録、聞き取り、自己評価など各学年の計画に基づき、一年間での評価となる。

評価の視点

「多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解について自分自身との関わりで考えを深めているか」の二つの視点について、児童のよき（努力や成長）を積極的に受け止め認められるように、以下の具体的な視点に基づき児童の学習状況を把握することとする。

視点 1
「多面的・多角的な見方へと発展しているか」の具体的な視点

- ① 友達の考えをよく聞き、理解しようとする姿勢が見られ、自分の考えを深めているか。
- ② 話し合いを通じて、新しい見方や考え方に気付いているか。

- ③ 自分とは異なる意見もよく聞くことで、自分と友達の意見を比べ、自分の考えを広げたり深めたりしているか。
- ④ 友達と議論することで、その意見に共感し、自分の考えを深め、明確にしているか。

- ⑤ 物事を様々な視点から見比べて比較することで、自分の考えを深めているか。

視点 2
「道徳的価値の理解について自分自身との関わりで考えを深めているか」の具体的な視点

- ① 登場人物に自分を重ね合わせて考える姿が見られるか。
- ② テーマに対し、自分の思いや考えをもって話し

合いに参加しているか。

③ テーマについて、自分の経験と結びつけて考えを深めているか。

④ 登場人物の状況を、自分に置き換え、行動(考え)に対し、「自分だったら」と自分事として考えているか。

⑤ 毎時間のテーマを自分事として捉えて考えを深めているか。

⑥ 授業で考えたことを、自分の生活に生かそうという意欲を高め、「これからはこうしたい」と具体的に考える姿が見られたか。

⑦ 授業を通じてテーマを自分事として捉え、自分の生き方について考えを深めているか。

⑧ 登場人物に自分を重ね、自分の生活を見直そうという姿が見られたか。

評価文の作成について

指導要録・あゆみ(通知表)共に百十文字程度とし、「大きくりな評価文+顕著であった学習状況の評価文」を基本とする。

※括弧の中に入れた教材名を表記することを基本とする。

※顕著であった学習状況は、内容項目のねらいに沿って書くように留意する。

※「印象的です」「感心しました」等の主観的な表現は避けつつ、児童の成長やよさが本人や保護者に伝わるように努める。

※配慮を要する児童など、児童の実態によって柔軟に対応する。

※以上はあくまでも基本の書き方であり、基本方針に則り、児童および保護者に伝わる内容であれば柔軟に工夫してよい。

●指導要録・あゆみ(通知表) 評価文例

	指導要録	あゆみ(通知表)
低学年(1年)	教材の登場人物に自分を重ね合わせて考える姿が見られた。特に「はしの 上のおおかみ」では、主人公のおおかみの気持ちになり、「親切にされるとうれしい気持ちになる」と親切のよさに改めて気付いた。	教材の登場人物に自分を重ね合わせて考える姿が見られました。特に「はしの 上のおおかみ」では、主人公のおおかみの気持ちになり、「親切にされるとうれしい気持ちになる」と親切のよさに改めて気付きました。
低学年(1年)	友達の考えをよく聞き、自分の考えを深めた。特に、「教材名」では、友達の発言を聞くことで、「働くことは自分だけでなく家族の喜びにもなる」ことに改めて気付いた。	友達の考えをよく聞き、自分の考えを深めました。特に、「教材名」では、友達の発言を聞くことで、「働くことは自分だけでなく家族の喜びにもなる」ことに改めて気付きました。
低学年(2年)	テーマについて、自分の経験と結びつけて考え、自分の考えを深めた。特に「教材名」では、剣道のときのモップ掛けを思い出し、働くことのよさについて改めて考えた。	テーマについて、自分の経験と結びつけて考えを深めました。特に「教材名」では、剣道のときのモップ掛けの事を思い出し、働くことのよさについて改めて考える姿が見られました。
低学年(2年)	話し合いを通じて、新しい見方や考え方に気付いた。特に「教材名」では、挨拶には人を喜ばせる力があることに気づき、新しい発見ができた喜びを感じている姿が見られた。	話し合いを通じて、新しい見方や考え方に気付きました。特に「教材名」では、挨拶には人を喜ばせる力があることに気づき、新しい発見ができた喜びを感じている姿が見られました。
中学年(3年)	自分と友達の意見を比べ、自分の考えを深めた。特に「教材名」では、きまりを守る未来について友達の意見を聞くことで、「きまりは安全な未来のためにある」と、自分の考えを深めた。	自分と友達の意見を比べ、自分の考えを深めました。特に「教材名」では、きまりを守る未来について友達の意見を聞くことで、「きまりは安全な未来のためにある」と、自分の考えを深めました。

	指導要録	あゆみ（通知表）
中学年 (3年)	一つのことがらについて、様々な視点から見ることで、自分の考えを深めた。特に「教材名」では、働くことを言われてやったり、言われずにやったりするときの心を見つめ、働くことの意義について考えを深めた。	一つのことがらについて、様々な視点から見ることで、自分の考えを深めました。特に「教材名」では、働くことを言われてやったり、言われずにやったりするときの心を見つめ、働くことの意義について考えを深めました。
中学年 (4年)	登場人物の状況を、自分と置き換えて考える姿が見られた。特に「教材名」では、遊んでいるときの言い合いを自分事と捉え、正しいことでも注意をする難しさについて気付き、自分にできることを考え、深めていた。	登場人物の状況を、自分と置き換えて考える姿が見られました。特に「教材名」では、遊んでいるときの言い合いを自分事と捉え、正しいことでも注意をする難しさについて気付き、自分にできることを考え、深めていきました。
中学年 (4年)	自分と結びつけて考え、「これからはこうしたい」と具体的に考える姿が見られた。「絵葉書と切手」では、切手の料金不足を伝えるかどうかを話し合うことで、「友達にとって何がよいか深く考えて行動したい」と考えた。	自分と結びつけて考え、「これからはこうしたい」と具体的に考える姿が見られました。「絵葉書と切手」では、切手の料金不足を伝えるかどうかを話し合うことで、「友達にとって何がよいか深く考えて行動したい」と考えました。
高学年 (5年)	自分と結びつけて考え、「これからはこうしたい」と具体的に考える姿が見られた。特に「教材名」では、友達の気持ちを考え、話をしっかりと聞いて、さらによいクラスにしていきたいと考えた。	自分と結びつけて考え、「これからはこうしたい」と具体的に考える姿が見られました。特に「教材名」では、友達の気持ちを考え、話をしっかりと聞いて、さらによいクラスにしていきたいと考えました。
高学年 (5年)	登場人物に自分を重ね合わせて考えた。特に「教材名」では、役割を守ることが周りのためにもなり、自分のためにもなり、深く考えた。	登場人物に自分を重ね合わせて考えました。特に「教材名」では、自分と重ね合わせて考えることで、役割を守ることが周りのためにもなり、自分のためにもなることに改めて気付きました。
高学年 (6年)	授業を通じて自分の生き方について考えを深めた。特に「教材名」では、自分が親からしてもらっているたくさんのことを考え、「自分も次の世代を支えられるようになりたい」と自分の考えをもった。	授業を通じて自分の生き方について考えを深めました。特に「教材名」では、自分が親からしてもらっているたくさんのことを考え、「自分も次の世代を支えられるようになりたい」と自分の考えをもちました。
高学年 (6年)	物事を比較することで、考えを深めた。特に「教材名」では、ピアノを弾く権利と静かに過ごす権利とを比較することで、「みんなの権利を考えるのが大切だ」と改めて気付いた。	物事を比較することで、考えを深めていきました。特に「教材名」では、ピアノを弾く権利と静かに過ごす権利とを比較することで、「みんなの権利を考えるのが大切だ」と改めて気付きました。
支援 学級	登場人物に自分を重ねて考える姿が見られた。特に「はしの 上のおおかみ」では、どちらのおおかみが好きかと聞くと、うさぎに道をゆずるおおかみの紙人形を指さしていた。	登場人物に自分を重ねて考える姿が見られました。特に「はしの 上のおおかみ」では、どちらのおおかみが好きかと聞くと、うさぎに道をゆずるおおかみの紙人形を指さしていました。

<p>中学1年</p>	<p>登場人物を自分に置き換えて考えることで、他者への理解を深めていた。特に「バスと赤ちゃん」では、それぞれの気持ちを考えることで、母親や運転手の気遣いが乗客に伝わり、思いやる心が人と人を温かく結びつけることに気付いた。</p>	<p>登場人物を自分に置き換えて考えることで、他者への理解を深めていました。特に「バスと赤ちゃん」では、それぞれの気持ちを考えることで、母親や運転手の気遣いが乗客に伝わり、思いやる心が人と人を結びつけることに気付きました。</p>
<p>中学2年</p>	<p>登場人物の生き方を議論する中で、人間の生き様について考えを深めた。特に「足袋の季節」では、釣り銭をごまかしてしまう人間の弱さを批判しつつ、後悔の念を深め、今度は誰かに施そうとする生き様に共感し、自分のこれからの生き方について、深く考えていた。</p>	<p>登場人物の生き方を議論する中で、人間の生き様について考えを深めていました。特に「足袋の季節」では、釣り銭をごまかしてしまう人間の弱さを批判しつつ、後悔の念を深め、今度は誰かに施そうとする生き様に共感し、自分のこれからの生き方について、深く考えていました。</p>
<p>中学3年</p>	<p>自分と違う考え方を理解しようとしながら、自分が取り得る行動を広い視野から考えようとしていた。特に「二通の手紙」では、登場人物の優しさに共感する一方で、規則を遵守することの意義について考えを深めていた。</p>	<p>自分と違う考え方を理解しようとしながら、自分が取り得る行動を広い視野から考えようとしていました。特に「二通の手紙」では、登場人物の優しさに共感する一方で、規則を遵守することの意義について考えを深めました。</p>

児童が発言できない、感想を書けない時は、指導方法の工夫が必要である。ねらいに迫る授業展開がなければ、児童はねらいまで到達しない。授業に自分自身との関わりで考えを深める場面や、多面的・多角的な見方へと発展するような発問が設定されているかを確認したい。評価で悩むより、授業改善で悩むべきである。考え、議論する道徳を行えば、個々の評価は容易である。また、支援学級の指導では、教材の提示や意思表現の手立てを工夫したい。

(かわかみ たかお)

● 所見チェック項目

- 個々の内容項目ごとにではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価になっている。
- 児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて励ます個人内評価になっている。
- 2つの視点を重視している。
- 発達障害等のある児童・生徒が抱える学習上の困難さ等の状況を踏まえた指導と評価になっている。
- 他の児童・生徒と比較した表現になっていない。
- 目標に準拠した評価（絶対評価）を思わせる評価になっていない。
- 児童・生徒の人格そのものを評価した記述になっていない。
- 道徳性そのものを評価した記述になっていない。
- 専門的な教育用語を使った記述になっていない。
- 根拠がない推測になっていない。
- 道徳科の特質に応じた学習状況の記述であり、どの教科にもあてはまる記述になっていない。(積極的な挙手が見られた等は不可)
- 学校生活の様子記述になっていない。(勤労の大切さに気付き、丁寧に掃除をする姿が見られました等は不可)

どうなるこれからの道徳授業

連載6回 導入から問題意識の設定編

監修・法政大学
キャリアデザイン学部兼任講師 廣瀬仁郎先生

マンガ・のはらあこ

とくちゃん



何事も最初が肝心っていうけれど、授業もそうだよ。

導入で子どもたちの心をぐっとつかむことができれば、そのあとの授業展開がスムーズになるよね。

「森の絵」だったら学習発表会に向けた学校生活の話だし、日常に関連した質問を試みるのもいいね。



今度「森の絵」って教材で授業するんだけど、どうやって始めたら効果的かなあ……。



たとえば教材を読む前に、主人公と似たような境遇がないか問い掛けたり、学校行事の予定があれば、その前後に授業を設定したりすると、子どもたちの意識や関心がつながっていくね。

学習発表会に向けて何をがんばりたい？

自分事として考えやすい質問だったら、全員に聞くこともできるね。

あらかじめみんなからアンケートをとっておくのもいいと思うよ。



授業の展開中にはなかなか全員に
意思表示してもらいづらいけど、
導入での簡単な質問ならできそう。

教材のタイプによって、導入も
いろいろと工夫できるよ。

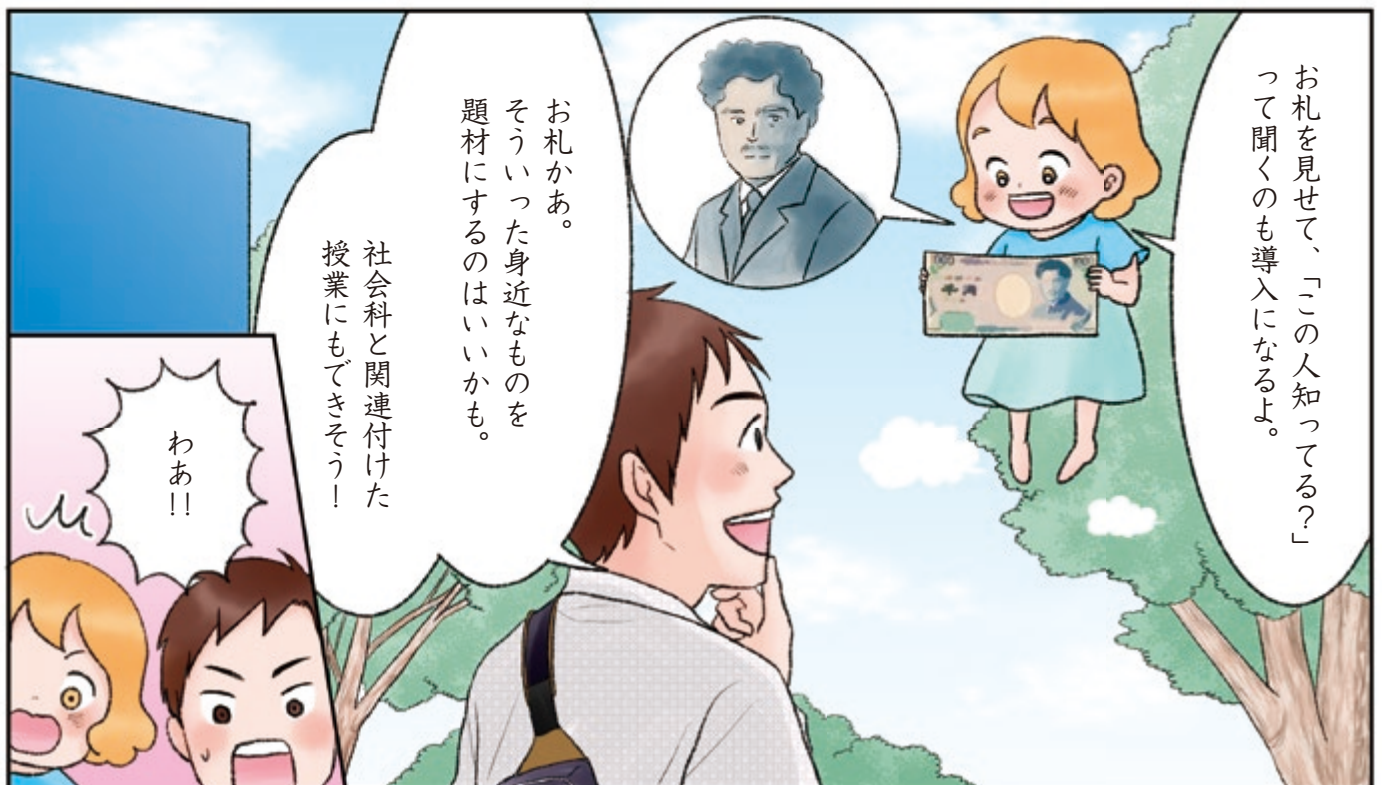
偉人を扱った教材だったら、
その人物の生い立ちを紹介したり、
関連する作品を紹介したり
するところから始めるのもいいかも。

自分が参加しているという
意識もちやすいね。



なるほどー

それも
使えるよ！

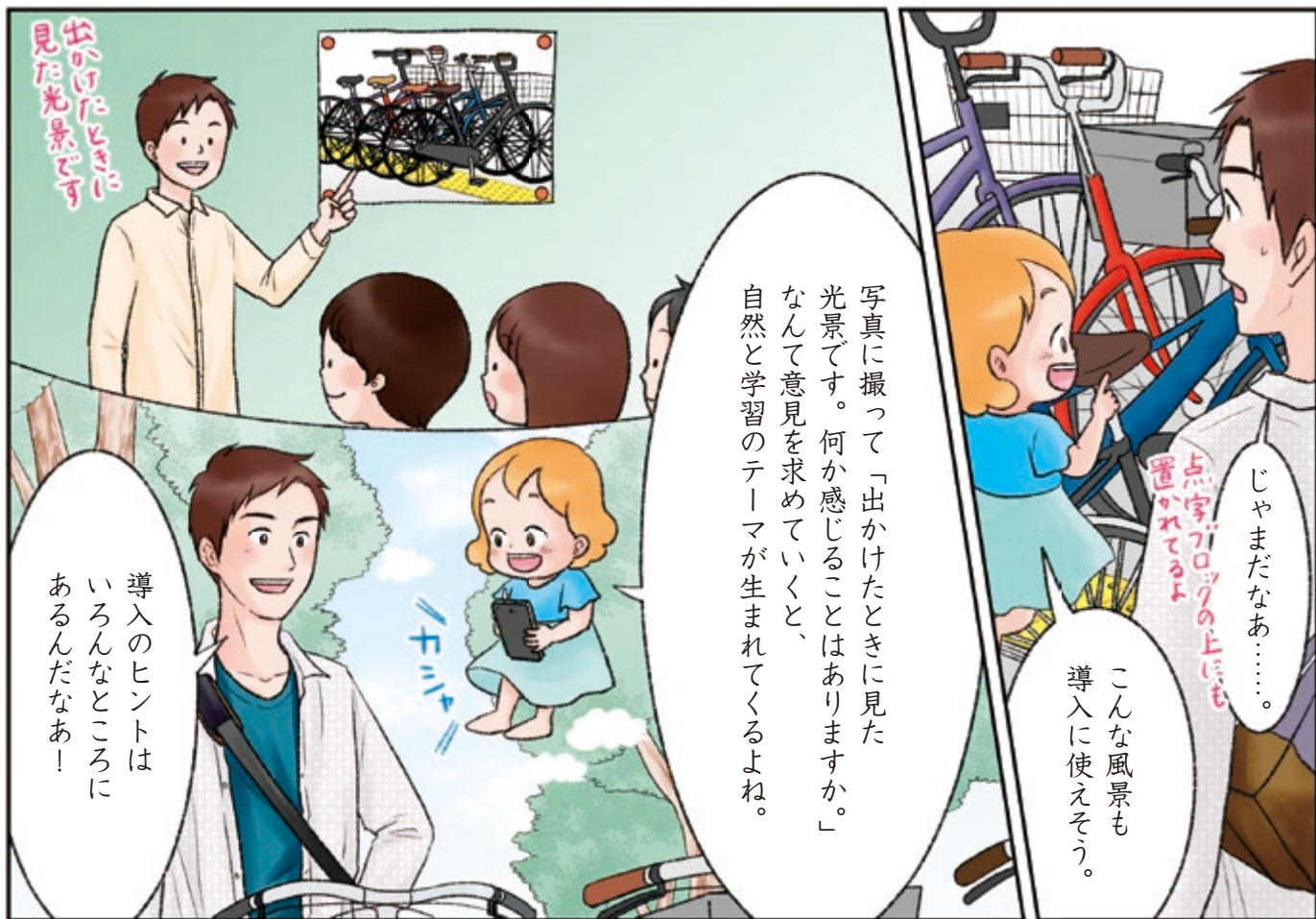


お札を見せて、「この人知ってる？」
って聞くのも導入になるよ。

お札かあ。
そういった身近なものを
題材にするのはいいかも。

社会科と関連付けた
授業にもできそう！

わあ！！



じゃまだなあ……。

点字ブロックの上にも 置かれてるよ

こんな風景も 導入に使えるそう。

写真に撮って「出かけたときに見た 風景です。何か感じることはありませんか。」 なんて意見を求めていくと、 自然と学習のテーマが生まれてくるよね。

導入のヒントは いろんなところにあるんだなあ！



導入はねらいや教材に関するところで、 子どもたちの関心を授業に 向けられるようにしたい大切な時間だね。

短い時間で子どもたちの問題意識を 高めて子どもたちを授業に 引き付けることがポイントだよ。

頑張っ
てね!!

とくちゃんありがとう！
今度の授業に何か取り
入れてみようかな……！

次回は、
オリエンテーションに
ついてご紹介！

ふむふむ

おたの
しみい

道徳ジャーナル104号 令和2年2月発行

発行所 株式会社 学研教育みらい 発行人 甲原 洋／編集人 木村友一

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部(〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8)

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

URL <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」は左記ホームページでもご覧いただけます。電子版(iOS, Android用)は「学研ブックビヨンド」から。

9300006535

学研 学研教育みらい ネット 検索

